

評価項目	本年度の活動（具体的な手立て）と指標	R 4 達成状況	R 4 成果と課題	学校関係者評価	R 4 今後の改善点
学力保障	<p>学力支援 【目標】主体的・対話的で深い学びのある授業づくりによる児童の学力及び学習意欲の向上 【指標】学習ボランティアの活用による学習意欲の向上 【目標】学校アンケートにおいて「国語は楽しい」「算数は楽しい」「授業がわかる」と答える児童の割合80%以上 【指標】「ゲストティーチャー、学習ボランティアの方が来て下さって良かった」と答える児童の割合80%以上</p>	<p>・児童アンケートより「国語は楽しい」72%「算数は楽しい」76%で目標を達成できなかった。一方で、「国語の勉強は大切だと思う」97%、「算数の勉強は大切だと思う」97%であった。 ・学習に関するアンケート「国語の授業の内容がよくわかる」は92%「算数の授業の内容がよくわかる」94%で目標を達成できている。 ・児童アンケート「ゲストティーチャー、学習ボランティアの方が来て下さって良かった」は97%で目標を達成できた。 （次年度は「国語・算数は楽しい」に加えて「国語・算数の勉強は大切だと思う」を指標に入れる。）</p>	<p>・国語科の学習では、音読劇を発表したり、調べたことをまとめて発表したりする単元で楽しさややりがいを感じている児童もいる。コロナ禍で制限はあるものの、できる限り学習の成果を他学年や地域の人に発信する機会を設定したい。 ・ゲストティーチャー等の出前授業を楽しみにしている児童も多い。図書ボランティアさんの読み聞かせなど、感染症対策を講じながらいろいろな人に出会う機会を増やしていく。 ・読書が好きと答えた児童は90%で昨年度より7%増加した。図書巡回支援員さんのブックトークや学級文庫の充実等、今後も児童が本の楽しさに触れやすい環境を整えていく。</p>	<p>・今後は、新型コロナウイルス感染症対策を講じて、ボランティアによる支援の機会を増やしてほしい。子どもの学習意欲向上や成長を感じる機会としたい。 ・教員の日常的な努力、学校関係者の効果的な支援、外部支援員による環境整備が一体となり、充実した学校運営と教育活動が行われている。児童アンケートの数値にも反映されている。継続的な活動を推進してほしい。 ・教師同士が互いの授業から学び合うことによる気付きを大切にしてほしい。 ・データの読み取り方の整理、実践の検証と公開、教員の要領の把握など、改善点についても取り組んでほしい。</p>	<p>・個に応じた学習支援や学習意欲の向上を図るため、ボランティアの活用を引き続き積極的に進める。 ・つきたい力をもとにめあてを児童に明示する。単元の見通しを持ったり、他学年に発信したりする活動を取り入れることによって学習意欲の向上を図る。機会があれば、保護者や地域の人へ発信する場を設定する。 ・「考えの良いところを見つける」「意見と理由を話す」「考えの根拠を問う」など、交流の目的を明確にした対話活動を取り入れる。対話する際の話し型について学校として統一できるものを探る。 ・本の楽しさに触れることができるよう、読み聞かせの時間や図書の時間を確保する。引き続き図書巡回指導員を活用し、ブックトークの実施や並行読書の整備、図書の充実を図る。 ・県教委作成の問題集「学び場セット」を活用するなどして、条件指定（文字数・キーワードを使うなど）がある問題に取り組む。市教委提供の「読む・書くワークシート」を活用し、視写や新聞を活用した問題に取り組む。</p>
	<p>授業実践 【目標】教師の授業力向上(指導方法の工夫改善) 【指標】提案授業及び公開授業を年間一人1回実施</p>	<p>・一人1回の授業公開・事後検討会を実施した。 （次年度は「国語・算数の授業はよくわかる」を授業実践の指標に見直す。）</p>	<p>・教育指導課から指導主事を招聘し、主体的・対話的な学びを通じた授業づくりについての研修を行った。授業力向上に役立った。 ・授業実践を公開し、学習指導要領の改訂に沿った指導方法の工夫改善に取り組みつつある。児童のやる気を引き出したり、考えを共有したりするためのツールとしてタブレット端末を活用している。児童一人一人に応じた学びを支援する工夫も継続していく。</p>		<p>・引き続き年間1人1回の授業公開を実施し、指導の工夫を確かめ合う機会を設ける。 ・タブレット端末を活用した学習について職員同士が交流する場を設定する。</p>
キャリア教育	<p>夢工房・出前講座の活用 【目標】夢工房や出前講座を各学年が学習内容に合わせ活用 【指標】各学年 年間3回以上の活用</p>	<p>・各学年3回以上活用できた。</p>	<p>・各学年の取り組みに応じて夢工房や出前講座等を活用し、専門的な知識を得るなど、学習効果を上げることができた。 ・新型コロナウイルス感染防止対策のため、例年のような学習ボランティアの活用はできなかった。</p>	<p>・様々な体験や専門的知識を得ることを通じて、夢や目標に近づく機会を得ている。 ・夢や目標を持たない児童、まだ持っていない児童それぞれに対し、効果的な指導や丁寧なフォロー、支援を工夫して行ってほしい。 ・日常の教育活動を工夫することによるキャリア教育の充実にも取り組んでほしい。 ・新型コロナウイルス感染症への対応も含めて、地域人材の活用を計画して行ってほしい。</p>	<p>・ゲストティーチャーを招いた授業は児童の関心も高く、成果もみられるので継続していく。学んだことを、各教科の学習や行事の取り組みなどに生かす。 ・講師の方から学んだことを振り返る活動を引き続き大切にしていく。</p>
	<p>人間関係形成・社会形成能力の育成 【目標】児童の実態を踏まえた実施計画作成及び授業実践 【指標】「将来の夢や目標を持っている」と答える児童の割合80%以上</p>	<p>・児童アンケート「将来の夢や目標がある」87%で、目標は達成できている。 ・各学年でカリキュラムを工夫し、いろいろな機会に取り組んでいる。</p>	<p>・授業実践や成長作文を通して、自分の生活を振り返ったり、将来に向けたビジョンを明確にしたりできる児童が増えた。 ・各学習の終わりに振り返り活動を行うことで、できるようになったことや分かったことを自覚している様子が見られる。</p>		<p>・「成長作文」や「キャリアパスポート」の取り組みを通して、自分の生活や学習を振り返る機会を設定する。 ・「遠足」「1年生を迎える会」「運動会」「6年生を送る会」など行事ごとに振り返り活動を行い、できるようになったことを自覚する機会とする。</p>
特別支援教育	<p>支援会議、個別的教育支援計画 【目標】子どものニーズにそった支援について話し合える会議の実施 【指標】個別の支援計画を充実させ、必要に応じてケース会議や支援会議等を年間2回以上実施</p>	<p>・支援を要する児童については、必要に応じてケース会議や支援会議を開き、保護者とつながりを持つことができた。</p>	<p>・毎学期個別の指導計画の作成、見直しを行い、個別の支援計画を充実させた。保護者とも連絡を密に取り合うことで意思疎通ができた。 ・次の学年の担任への引継ぎは確実に行っていく。</p>	<p>・様々な機会があり、異文化理解やコミュニケーション能力の育成に役立っている。定期的に実施し、自然と興味を持つことができるようにしてほしい。全学年単級となり人間関係の固定化が危惧されているので、取組の効果に期待したい。ボランティアの活用も進めてほしい。 ・様々なケースに対し、ケース会議・支援会議の開催や支援計画・指導計画作成等を通して、保護者と密に連携しきめ細やかな対応を行っている。記録、活用留意してほしい。 ・困り感のある子どもや保護者をキャッチする力が教職員にある。今後でも大切にしてほしい。</p>	<p>・学年部会や職員会議などで情報共有の場を継続して設けていく。 ・今後も計画的な支援会議を開催し、継続した指導や支援を進めていきたい。 ・保護者との連絡を取りつつ、必要に応じて支援会議を行っていきたい。</p>
	<p>多文化共生教育 【目標】異文化理解及びコミュニケーション能力の育成 【指標】鈴鹿大学留学生等との交流を年間1回実施 異文化に触れる機会を学期に1回以上持つ</p>	<p>・外国籍児童に対して個別に日本語指導の時間を週2回設けた。 ・3学期に鈴鹿大学留学生との交流を実施予定である。 ・教科や食育など、外国の言葉や文化について学んだ。</p>	<p>・個別指導を行ったことで児童が安心して一斉授業に参加できるようになった。 ・3学期に鈴鹿大学留学生との交流を予定ではあるが新型コロナウイルスの影響により交流の予定がまだ未定である。 ・低学年では歌やゲームを通して異文化に親しみ、高学年では言葉や文化の違いなどについて学んだ。</p>		<p>・国際交流についてはコロナ禍であったが実施することができた。調整が難しいという現状ではあるが、貴重な体験になるので大学と連携して進めていきたい。 ・機会があれば、地域の方で海外の生活や文化に精通している方に児童に向けてのお話をしていただきたい。</p>
人権教育	<p>人権を尊重する態度の育成 【目標】「豊かな感性を培い、一人ひとりの違いを認め合って、身の回りの差別を見抜く目を養うとともに、差別の解消に向けた実践力をもった子どもの育成」 【指標】身の回りの差別について考える授業を年に2回以上行う。</p>	<p>・学年や学級の実態に合った課題を取り上げた授業を行うことができた。 ・温かい仲間づくりを目指そうと児童が中心になって啓発ポスターを作成し、全校に呼び掛けた。 ・職員がピンクジャツ運動に取り組むことで、児童に対し一人一人の違いを認め合うことへの意識付けを図った。</p>	<p>・年度初めに全学年共通の教材で授業を行い仲間づくりについて共通認識を持つことができた。 ・今年度も地区別での参観会となったが、昨年度と今年度で合わせて全保護者に公開できるように時間割を工夫した。 ・身の回りの差別に気づくことができても、相手の立場にたって考え行動できる子はまだ少ない。今後も引き続き、取り組みを続けていきたい。</p>	<p>・ピンクジャツ運動等、目に見える活動を地域も共に継続していきたい。取組を発信してほしい。 ・違いに関わらず一人の人として尊重する大切さを具体的に考える取組をどんどん行ってほしい。また、相手の立場に立つて考えることができるよう、もう一歩踏み込んで継続的に取り組んでほしい。 ・肯定的に捉えてもらっていない数パーセントの児童に焦点を当てて取り組んでほしい。 ・郡山小学校の特色ある取組と校区各校の取組情報を共有すれば、特色が膨らむのではないかと。</p>	<p>・地域とともに取り組みやすい活動については、子どもたちが家庭や地域に直接伝えられるように働きかけたり通信等を通じて発信したりしていく。 ・今後も、一人一人を大切に作る取り組みをこれからも日常的に実践し、日々の生活の中で相手の立場に立つて考えるような機会を逃さずにとらえ、子どもたちが自然とそれを意識できるように仕向けていきたい。</p>

評価項目	本年度の活動（具体的な手立て）と指標	R 4 達成状況	R 4 成果と課題	学校関係者評価	R 4 今後の改善点
生徒指導	<p>基本的生活習慣の育成 【目標】あいさつ指導の徹底 【指標】「自らすすんであいさつできる」子ども90%以上 【指標】「自らすすんであいさつできる」子ども90%以上 【指標】児童会、委員会等による児童が自主的に学校生活を良くしていく活動の実施</p>	<p>・児童アンケート結果より「自らすすんであいさつできる」と90%の児童が回答し、指標としていた数値に達した。 ・各委員会から、学校生活をよくしていくための活動を実践することができた。児童会、代表委員会は年間を通して、あいさつ運動を実施した。</p>	<p>・児童会、代表委員会の活動では、継続的に行っているあいさつ運動に加え、児童が積極的にあいさつできるよう工夫した取り組みを行った。活動期間中は児童が進んであいさつする様子が見られた。 ・児童会や委員会等で、学校生活をより良くするために、児童が取り組みを考え、発信する活動を行ってきた。その結果、あいさつに関するだけでなく、自分たちで郡山小学校をより良くしていくとする姿が見られるようになった。</p>	<p>・学校の取組をホームページ等で積極的に発信してほしい。このことにより地域の大人の関心を高め、児童が認められる機会を増やしてほしい。また、日頃から地域の大人が協力し、子どもに語りかけていきたい。 ・いじめや不登校防止のために注視してほしい。いじめにつながる言動に気が付き、みんなの問題として考え助け合える仲間づくりを目指してほしい。 ・児童のあいさつの習慣化、交通マナーの指導や、児童アンケート「学校が楽しくない」の現任の把握に努めてほしい。</p>	<p>・児童会や委員会の活動を通じて、子どもたちから働きかけて、自らあいさつができるように継続して取り組んでいく。 ・あいさつの取り組み期間中だけでなく、あいさつの習慣がつかないように繰り返し声をかけていく。 ・登下校の安全について、交通安全教室や、地区別児童会の機会に重点的に指導していく。 ・委員会活動や行事の様子をホームページ等で発信し、学校の取り組み内容を伝えていくようにする。</p>
	<p>不登校やいじめのない学校づくりの推進 【目標】子どもが「明日も来たい」と思えるような学校づくり 【指標】いじめについてのアンケートおよびいじめ対策委員会 年間3回実施 【指標】児童の気になる様子や、学級の現状を毎月情報交換し、学校全体で情報共有するとともに対応を検討する。 【指標】「いじめをやめるように言ったり、誰かに伝えたりすることができる」と答える児童の割合80%以上 【指標】いじめ防止をテーマにした授業を実践。</p>	<p>・児童アンケートの結果より「学校が楽しい」と86%の児童が回答した。 ・いじめ、虐待についてのアンケート、および対策委員会を年間3回実施し、いじめ、虐待の早期発見や継続した観察に活かした。 ・不登校や配慮の必要な児童の情報を毎月交換し、情報を細かく早く共有することができた。 ・児童アンケートの結果より、「いじめをやめるように言ったり、誰かに伝えたりすることができる」と86%の児童が回答した。</p>	<p>・いじめ、虐待についてのアンケートの結果を受けて、各担任が教育相談を実施し、児童の実態を把握して対処することができた。また、必要に応じて対応について複数の教員で協議したり、その内容を職員間で共有したりして、共通理解を図りながら取り組むことができた。 ・定期的な情報交換によって、配慮の必要な児童に関して、共通理解を持つて教育活動を進めることができた。 ・いじめを許さない姿勢やいじめを解決しようとする姿勢を育てるため、いじめに関する授業や、人権に関する授業を各学級で設定することで、いじめについて共に考える機会を持つことができた。</p>		<p>・いじめを許さない、見逃さない姿勢で指導にあたる。 ・困っていることを言えるような児童間や、児童と教師の関係づくりをすすめていく。 ・日々の学校生活の中、健康観察や身体測定等の場面で異変に気が付いたときは、情報を共有し、児童の様子の変化を見逃さない体制をつくる。 ・不登校傾向が見られた時に、初期対応のための体制をしっかりとつくれるようにする。また、不登校傾向のある児童が学校に来やすい環境をつくれるようにチームで対応し、支援を続けられるようにする。</p>
地域ぐるみの教育	<p>鈴鹿型コミュニティースクール 【目標】地域と共にある学校づくり 【指標】学校運営協議会の開催回数 年間6回 【指標】月1回の学校だより発行・学校ホームページの積極的な更新を通じた、地域への情報発信</p>	<p>・学校運営協議会を年6回開催した（内第3回は天栄中校区で実施）。協議会の内容は、学校だよりで地域・保護者に情報発信した。 ・新型コロナウイルス感染防止のため委員が来校する機会が制限されていることから、スライドショーを活用して学校の様子を伝えた。 ・学校だよりを月1回以上発行し、学校の教育活動について発信した。学校ホームページは適宜更新し、学校生活の様子等を定期的に発信した。</p>	<p>・学校運営協議会において、子どもたちの様子を視点を当てた熟議が熱心に行われた。その様子を今後も地域や保護者に発信していく必要がある。 ・全国学力学習状況調査の結果分析を発信し、授業をはじめとする教育活動の改善の視点を共有した。具体的な改善につなげていきたい。 ・学校ホームページの更新により学校の様子を発信していくことができた。引き続き積極的な発信を続けるとともに、閲覧回数を増やす工夫を行う必要がある。</p>	<p>・学校ホームページ等、様々な機会を通して継続的、積極的に発信する努力を続けるとともに、もっと多くの人が興味を持てるように改善してほしい。 ・地域コーディネーターの積極的な取り組みと継続が郡山小学校の歴史に根付いている。今後も児童、保護者、教職員を支えてほしい。 ・新型コロナウイルス感染症や小規模化の状況も踏まえ、ボランティアによる支援や地域への働き掛けを増やし、活発な地域ぐるみの教育を行ってほしい。</p>	<p>・学校ホームページや学校だより等、様々な機会を通して継続的、積極的に発信する努力を続けるとともに、もっと多くの人が興味を持ち、学校の教育活動方針に対する理解を深めることができるための内容改善を行う。また、ホームページ閲覧時の視認性や操作性が高まるよう改善を働き掛ける。 ・保護者や地域、学校の連携によって教育活動の改善が図られるよう、学校の取組や今日的な教育課題等を学校運営協議会等に発信し、熟議を通して共有していく。 ・地域コーディネーターとの連携をさらに図ることにより、地域資源（人的、物的）を発掘し学校支援の輪を広げる。 ・新型コロナウイルス感染症や小規模化の状況も踏まえ、地域ぐるみの教育につながる取組を工夫する。</p>
	<p>地域の教育力の活用 【目標】地域と共に子どもを育てる学校づくり 【指標】ボランティアによる学習支援 年間170回以上</p>	<p>・新型コロナウイルス感染防止対策を徹底することで、ゲストティーチャーや地域の方々との連携による取組を少しずつ実施することができた。 ・交通指導、環境整美や読み聞かせボランティア等の継続的な支援により、教育活動の充実につながった。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ボランティアルーム（作志の部屋）や学習ボランティアの活用が中止されている。</p>	<p>・新型コロナウイルス感染拡大防止策を徹底することにより、子どもたちが様々な体験をすることができ、一人ひとりの成長につながった。 ・地域コーディネーターの尽力により、地域の方がボランティア活動の趣旨を理解し、参加しやすい環境づくりができています。 ・新型コロナウイルス感染状況を踏まえた支援について、地域コーディネーターや学校運営協議会委員の意見も参考にしながら、工夫して実施していくことを検討する必要がある。</p>		